

第 2 学 年 竹 組

算数科 『どんな計算になるのかな』

指導者

杉山 徳子 (T1)
佐々木 智子 (T2)
伊藤 亙 (T3)

1. 日時 6月28日(水) 2校時(9:20~10:05)
2. ねらい 2位数の加減法を適用して、逆思考の問題作りをすることができる。
3. 本時の実際

時 間	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援及び評価 (◎評価)		センターの先生の支援
9:20	1. 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">へんしんさせたもんだいをつくろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の見通しを持てるように、前時に解決した4つの問題文と式、答えを提示する。 ・ 1つ目の問題を解く際、児童の意見を取り上げる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶と自己紹介をする。 ・ 1つ目の問題を提示して逆思考の問題が作れるか問い解答を示す。
9:30	2. コース別に問題作りに取り組む。	☆じっくりコース (T2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら問題を作れるように大事な言葉を確認する。 「あわせて」「ぜんぶで」「ちがいは」「どちらが多い」 ・ 問題が書けない子どもには、穴埋めプリントを用意する。 	☆どンドンコース (T1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら問題を作れるように大事な言葉を確認する。 「あわせて」「ぜんぶで」「ちがいは」「どちらが多い」 ・ 3問すべてできた子どもには、チャレンジコースへ進むように促す。 	☆チャレンジコース (T3) <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の作った問題を見て、必要な数字や適切な言葉がきちんと使われているかチェックする。 ・ 問題を見せに来た児童に対して賞賛したり、助言を与えたりする。
10:00	3. 本時の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ がんばりが認められる子どもの振り返りを選び、発表の指名をする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想や助言を話す。

